



わらしべの里通信

社会福祉法人
わらしべの里

第14号(通巻28号)
発行日
2008年07月01日
発行所
わらしべの家
パソ工房

おとくぼ

洞爺湖サミットの論議にも
あるとおり、今、世界で地球規
模の危機感をもたれている環
境問題。

わらしべの里では、障害者
福祉サイドからこれの改善に
直接貢献できることを、十八
年四月から取り組んでいた。

市・内外の各方面から廃食
油を一リットル一円で引き
取ってきて、それをもとにB
D・バイオディーゼル燃料
を精製している。この燃料だ
けでわらしべの里の送迎車三
台が、この二年間走行してい
る。

これは、他に報道されてい
るトウモロコシや小麦などか
ら精製するバイオエタノール
と大きく違う。菜種油からつ
くられた食用油が一度使用さ
れ、無価値となった廃油を再
利用するからである。車の燃
料に使われても地球温暖化を
早めるCO2の排出は非常に
少なく、地球温暖化防止協定
ではゼロカーボントである。効
率の良い「究極のリサイクル」
であり、これによる食用油の
価格には影響しない。 仁

2008年度、お花見会



桜満開、桜の木の下で過ごす午後

「うわ、桜が満開。きれいですねえ」。少
し強い風にたなびく桜を見ながら、ビニール
シートを広げ準備をする仲間たちと橋本洋子
新施設長。宇都宮市で、平年より七日早く桜
の開花が観測された翌日の四月四日(金)午
後、毎年恒例の「お花見会」が栃木市内でも
桜の名所である「永野川河川敷緑地公園」で
行われた。

風景を心にスケッチする参加者達

お花見会当日は、仲間たちの日頃の行いが
良かったせいなのか?昨年より少し暖かく、ちょ
うどよいお花見日和になった。

青空の下、満開の桜たちに囲まれ、仲間た
ちはその足元でお菓子を食べたり、携帯電話
のカメラで、記念撮影したりとのんびり過
しシートの上も笑顔が満開!

しかし「花より団子」とはこのこと、お菓子
を食べた後は、野球やサッカー、散歩をし
たり、まるで冬眠から目覚めたかのように花よ
り遊びに夢中になりレクリエーションに没頭
していた。

「ポッチャン、ポッチャン」、風に流されサッ

新施設長を含む全員で交流を深める



カーボールが何度も川に落ちるのを見ながら
身体を伸ばしたり、春の川辺で見られる風景
を思い思いにスケッチしている仲間も数人い
た。その中の一人は、「まだ途中でですけど、桜
がきれいで、いい絵がかけました。私は入った
ばかりだけど、みんなと仲良くしていきたい」
と話していた。

わらしべの家に戻った仲間は、「花がきれい
だったから、楽しかった」、「ゲームができた
から、楽しかった」、「野球楽しかった」と口
をそろえた。季節の移ろい、四季のある風景の
すばらしさを再発見した春の一日は、こうし
て過ぎていった。(混む)



満開の桜に見守れながら、遊ぶ仲間たち。

橋本洋子施設長の話

「施設長になっ
て、はじめて仲間
と職員とお花
見会。春のあたた
かい風をうけな
がら、満開に咲き
ほこった桜の木
の下での楽しい
ひととき。みんな
の笑顔が桜に、負
けないくらい輝
いていました」



わらしべの里保護者主催

総勢六十二名で、感謝の気持ち表す

四月二十八日、青空の下、栃木市内の結婚式場にわらしべの家の仲間たちや保護者が、わらしべの里保護者会主催で「大懇親会」を、開こうと集まった。

総勢六十二名で、「長年お世話になった理事長ご夫妻、日ごろお世話になっている支援員の皆さんに対して、感謝の気持ちを伝えよう」という趣旨の式典が、飛鳥の間で社会福祉法人わらしべの里評議員を務められている茂呂久美子さんの進行ですすめられた。

「社会資源の一つになった」全員で成長喜ぶ

「理事長、施設長交代」という大きな転機を見届ける機会に身をおいているためか、参加者は緊張した表情を浮かべていた。金坂義江前理事長退任の挨拶、金坂直仁新理事長、橋本洋子新施設長就任挨拶、花束贈呈。いつもお世話になっている支援員さんなどに花束贈呈と続いた。挨拶の中で、金坂直仁理事長は、「『うちき子どもの家』から福祉に携わって、約三十二年。一九七九年四月に創設したわらしべの里。今では仲間の人数も三十一名になり、多方面から社会資源の一つとして、認

「大懇親会」が開かれる



わらしべの里の発展を祈って、乾杯する参加者たち。

められている。非常に嬉しいことで、わらしべの里の更なる発展のために理事長へ就任させていたのだ」と創設者として、成長を喜んだ。式典終了後、参加者たちは、大懇親会出席のため、芙蓉の間へ移動。会場に並べられたいくつもの丸テーブルに仲のいい仲間たちや、支援員さん、保護者たちが座り、数年ぶりの再会におしゃべりに花を咲かせ、春の味に舌鼓を打った。

橋本洋子施設長は、みんなと食事しながら、保護者と懇談。「わらしべに来てから、一、二週間は緊張しましたが、今はみんなの笑顔に助けられている。もっとわらしべの家を明るくしたい」と、これからの抱負を語っていた。

午後一時からの余興で最大の見

せ物は、仲間たちの顔写真や日々の様子を写したスナップ写真をスライドショーにして上映することだった。しかし、機器トラブルで映らない。仲間たちがひとりずつ、理事長ご夫妻へメッセージカードを渡したり、ステージ上で「ベストフレンド」、「しあわせなら手をたたこう」を参加者全員で合唱しても、トラブルは復旧しなかった。

スライドショーを収めたCD-Rは、後日渡されることになり、大懇親会は一本締めでお開きとなった。(混む)

「仲間たちからの声」

「新施設長や仲間や職員さんたちと楽しい雰囲気の中、お話しをしたり、食事をしたりしてふだん自分が出せなかったことを発見できたことが良かった。

また、前施設長さんや前理事長さんにお礼の手紙を渡すときに、長い間お世話になったことを思い出してしまい、心の底から泣きそうになったけど、感謝の気持ちを言いながらできたので、よかった。お料理は、とっても良かったです。」

「四月二十八日の食事は、とても楽しかった。でも、少しさびしかった。金坂直仁さんと義江さんが、やめてしまうので。

金坂直仁さんは、施設長を辞めて、理事長になって、理事長が辞めてしまったので、それをまげて。」

「さびしかった。ちよっぴり、ないた。しょくじが、おいしかった。かなしかったです。おにくが、おいしかったです。」





新施設長あいさつ

施設長 橋本 洋子

わらしべの家は、本年度三十一名の仲間たちでスタートしました。

「おはようございます」と大きな声で挨拶を交わすことから、みんなの朝が始まります。わらしべの家には、いつもアットホームな穏やかな雰囲気の流れています。仲間たちは、楽しく触れ合いながら、自分に合ったものを探し出し、持ち場を守り、助け合っていて、生き生きと働いています。休憩時間には、カフオケで得意の歌を歌ったり、おしゃべりをしたりして、楽しいひとときを過ごします。

一日の仕事が終わると、それぞれが役割を持って、使ったものの、整理や清掃をきちんと行っています。一人ひとりが持っている、豊かな感情、素直さ、優しさ、繊細な心、根気強さなど、その才能や可能性を見極めて丁寧に伸ばしていくことが自立につながります。

そのためには、私たち職員が力を合わせて、きめ細やかに接していくことが何よりも大切なこととおもっています。

障害者が、日々希望を持って自立に向かって生きていくためには多くの困難が立ちふさがっています。私たちの施設の現状と将来も不安定な状況の中にあります。そうした課題を克服していくためにも、地域のみなさまをはじめ関係のみなさまの深いご理解とご支援を心よりお願いいたします。

新理事長あいさつ

理事長 金坂 直仁

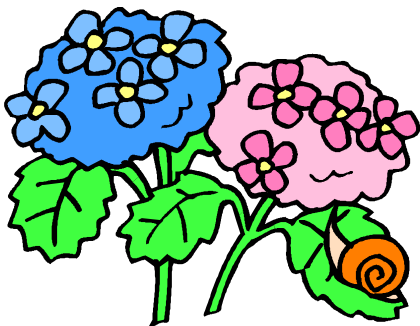
新しい体制になりましたが、よろしく……

平成二十年三月末で、理事長・金坂義江が退任されました。同年四月一日付で金坂直仁が新たな理事長に就任させていただきました。また、常務理事・施設長に橋本洋子さんが就任されております。

わらしべの里にとっては大きな変化ではありますが、基本的には今までどおり、利用者(仲間)たちの幸せを最優先にした通所施設として、すべての職員が力を合わせて運営されていきます。

これからの大きな課題は、障害者自立支援法による福祉施設に移行していかなければなりません。その具体的な内容は、これから検討されていきます。利用者・保護者のみなさまと十分に情報を交換しながら、わらしべの里にふさわしい方向にすすめていきたいものとおもっております。

直接の施設の利用者やその関係の方々はもちろん、この施設の周辺地域の皆様にも見守りとご支援をいただきながら、これからも歩んでまいります。



編集後記

新しい年度を迎えることができました。わらしべの里通信第十四号(通巻二十八号)が完成しやつと発行ができました。

今年の五月は、雨の日が多く気温も低い日が多かったように思います。わが家では連休前にこたつや暖房器具は片付けてしまいました。いつもは風邪をひかない僕ですが、今年はそのせいか風邪をひいてしまい、治りそうでも治らず長くかかってしまいました。今は全快で元気もりもりです。

今、梅雨入りで雨が多い季節。この梅雨が明けると、暑い日が続きどんな猛暑日があるだろうか。

皆さんに、わらしべの様子が伝わる紙面を作っていくしたいと思いますので、どうぞよろしくご愛読のほどお願いします。(範)

社会福祉法人わらしべの里

『わらしべの里通信』第14号(通巻28号)
発行元 社会福祉法人わらしべの里
発行責任者 金坂 直仁
編集者 わらしべの家パソ工房
〒328-0011 栃木市大宮町2708-3
電話 0282 - 27 - 1627
Fax 0282 - 27 - 1675
E-mail warasi-nk@cc9.ne.jp (事務所)
<http://www.cc9.ne.jp/~warashibenosato/>

